

May 2015 subject reports

Japanese B

Overall grade boundaries

Higher level

| | | | | | | | |
|--------------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 13 | 14 - 26 | 27 - 45 | 46 - 60 | 61 - 72 | 73 - 87 | 88 - 100 |

Standard level

| | | | | | | | |
|--------------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 11 | 12 - 23 | 24 - 39 | 40 - 55 | 56 - 69 | 70 - 86 | 87 - 100 |

Higher level internal assessment

Component grade boundaries

| | | | | | | | |
|--------------------|-------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 3 | 4 - 6 | 7 - 12 | 13 - 17 | 18 - 21 | 22 - 26 | 27 - 30 |

提出された成果物の特徴および適切さ

学習内容は『「言語 B」指導の手引き』に基づいて選択されており、また IA 自体も **Part 1 & Part 2** での構成が確立されてきていた。**Part 2** では、公式の場での言語の受け答えが欠けているサンプルが見受けられた。また、事実の確認にとどまる受け答えも見受けられた。

大方のサンプルが IB 言語 B ガイドラインによる与えられた試験時間以内でこなされていた。Part 1 & Part 2 の時間配分が IB 言語 B ガイドラインにそっていないサンプルも見受けられた。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A: Productive skills

Part 1 発表においては、ほとんどの受験者がさまざまな文法を使いこなし、また、発音やアクセントもよく習得されていた。しかし、受験者によっては HL レベルでの語彙、文法構成が十分使われていない評価も見受けられた。

規準 B: Interactive and receptive skills

Part 2 教師との意見交換では、ほとんどの受験者が積極的に受け答えていた。受験者によっては事実の交換にとどまり HL レベルでの受け答えに欠けているサンプルも見受けられた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- IB 試験の一環である IA は、すべての発表および教師との会話は公式な言語の使い方を受け答えをするようにしてください。
- 受験者自身の文化および伝統と日本の文化との比較をさらに取り上げることによって、受験者が IB プログラムから学ぶ意味が出てくるでしょう。
- Part 1 では、受験者の発表以外の音になるべく入らないようにしてください。
- Part 2 では、受験者から事実を確かめるだけではなく、その事実から受験者が何を考えるのかを引き出すことをさらに提案したいと思います。
- IB 言語 B ガイドによると、IA の過程はすべて日本語で行われることが提案されています。受験者が Part 1 を始める前に受験番号および学校名、名前など日本語で述べることを確認してください。
- IA 試験時間は IB 言語ガイドラインに厳密に基づくことを再度強調します。今後、定められた時間に達した際にサンプルはその時点で止められることとなります。

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

| | | | | | | | |
|--------------------|-------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 3 | 4 - 6 | 7 - 12 | 13 - 17 | 18 - 21 | 22 - 26 | 27 - 30 |

提出された成果物の特徴および適切さ

トピック学習内容は、IB 言語 B ガイドラインに基づいて選択されており、また、IA 自体も Part 1 & Part 2 での構成がさらに確立されてきていた。

トピック「文化の多様化」は取り上げられていなかった。トピックによっては語彙が難しく、覚えた文を繰り返し使う結果になった受験者が見受けられた。

大方のサンプルが IB 言語 B ガイドラインによる定められた試験時間以内でこなされていた。Part 1 & Part 2 の時間配分が IB 言語 B ガイドラインにそっていないサンプルも見受けられた。

評価規準に基づく受験者の到達度

Criterion A: Productive skills

受験者はさまざまな語彙および文法を使い発表をこなしていた。

大方の受験者は、与えられた写真およびタイトルまたはキャプションを使い発表が十分できていた。しかし、与えられた Part 1: 3分の時間を使いこなせない受験者も少数見受けられた。

Criterion B: Interactive and receptive skills

大方のサンプルが単なる事実の確認および答えにとどまっていた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 写真はカラーであること望ましいです。また、タイトルまたはキャプションが伴うことは必要づけられています。そのことによって、受験者が述べたいことにフォーカスができるでしょう。
- IB 言語 B ガイドによると、IA の過程はすべて日本語で行われることが提案されています。受験者が Part 1 を始める前に受験番号および学校名、名前など日本語で述べることを確認してください。
- Part 2 意見の交換においては、事実を確認するにとどまらず、Part 1 での発表の内容をもっと深めるような進め方を提案したいと思います。
- クラスのチャイム、他の生徒の声、聞き手の声などが入らないように再度の確認を提案します。
- Part 1 および Part 2 の時間配分をさらに確認してください。また IA 試験時間は IB 言語ガイドラインに厳密に基づくことを再度強調します。今後、定められた時間に達した際にサンプルはその時点で止められることとなります。

Higher level written assignment

Component grade boundaries

| | | | | | | | |
|--------------------|-------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 4 | 5 - 8 | 9 - 12 | 13 - 15 | 16 - 17 | 18 - 20 | 21 - 24 |

提出された成果物の特徴および適切さ

全体的に文学作品を読み、それに基づいて、何かの形で自分の作品を作る、という基本概念は多くの生徒が理解していた。しかし、「感想文」と題名に書いた生徒も目立ち、これは IB がこの WA で要求しているものではないので、要注意。また、原作に関しては、「高瀬舟」、「走れメロス」、「蜘蛛の糸」、「鼻」、「坊ちゃん」の 5 作品が圧倒的に多かった。WA の内容としては、大多数の受験者が、ある登場人物の気持ちを探る日記かブログ、または、原作の終わりを書き換えるというタスクタイプを書いていた。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A: Rationale and Task

WA では趣旨の書きかたが一番難しく、Criterion A で高得点を取る受験者は少なかった。特に、原作の紹介が足りなかった。採点者は原作を知らないつもりで採点するという設定になっているので、まずは、原作についてのごく基本的な情報（登場人物、簡単なあるすじ）を書いてもらわないと、“connected to the literary text” が判断できず、点にはならない。また、自分の作品を書いた目的や、その目的をどう達成したかについて、字数範囲内でできるだけ詳しく説明してほしい。

規準 B: Organization and Development

受験者ほとんど全員が読んでいて筋が通る文章を書いていた。しかし、段落がなかったり、発展がなかったりする作品も中にはあった。特に登場人物の気持ちを日記などに書いている場合に、まとまりがない文章になってしまった例もあった。また、原作の違う終わりを書いている場合、ただ簡単に「こうなった、ああなった」と書いてあるだけで、展開や発展がない文章もあった。

規準 C: Language

語彙も文型も、幅、正確性の両方に関して、全体的に良かった。時々漢字の入力ミスが多い文章もあった。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- WA は「感想文」ではないことをしっかり受験者に伝えてください。

- ワークショップやOCCなどで意見を交換しあい、もっと幅広い文学作品を探してください。
- 漢字の入力ミスに関しては注意させてください。
- 趣旨の書きかたが点に大きく響くこと、どれだけ重要なかを強調してください。趣旨のほう作品より大切だと考えても間違いありません。特に、採点者は原作を読まないで、原作についての最低必要知識を必ず紹介すること、また 500 字ぎりぎりまで書いていなければ多分説明不足で **Criterion A** で高得点はとれないだろう、ということに分からせてください。

Standard level written assignment

Component grade boundaries

| | | | | | | | |
|--------------------|-------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 3 | 4 - 7 | 8 - 11 | 12 - 14 | 15 - 17 | 18 - 20 | 21 - 24 |

提出された成果物の特徴および適切さ

受験者自身がテキストを選び WA を書くのは、今期が最初で、幅広い、興味深い内容のものが多かった。受験者が意欲的にとりくみ、自分のアイデアを活かし、おもしろい作品を書き上げた姿勢が伝わった。非常に良く書けているものから、ほとんど内容が理解できないものまで様々なレベルのものが提出されていた。トピックや選んだ資料が受験者のレベルに対して難しすぎると思われるものも目立った。環境問題や、原発事故、いじめについて書かれたものが多かった。テキストタイプは、ブログが非常に多く、新聞記事、スピーチやインタビューも多かった。コンピューターで打っているので、ページのデザインから、色使い、写真を取り入れるなど、いろいろな工夫があり、読んでいて非常に楽しかった。もちろん、評価されているのは日本語なので、こういう工夫は直接点にはならないが、全体印象としては非常によかった。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A: Rationale and Task

WA では趣旨の書きかたが一番難しく、**Criterion A** で高得点を取る受験者は少なかった。特に、目的の説明が足りなかった例（私は環境問題についてのブログを書きます）や、本文の中でどんな資料（sources）がどのように使われていたのかの説明が薄かった例（私はインターネットの記事を3つ読みました）が目立った。採点者は資料は読まないで、それを十分に考慮して、字数範囲内でできるだけ詳しく説明してほしい。趣旨が200字以下のものも多く、説明不足となっていた。また、ここまでが趣旨で、ここからが本文と明確にはわからないような書き方も見られた。

規準 B: Organization and Development

受験者ほとんど全員が筋が通る文章を段落に分けてしっかり書いていたのが良かった。インタビューや会話を書いているときに、内容が展開に欠ける傾向があるので、要注意。規定の字数（600字

～800字)を超えている場合、まとまりのない文章で終わってしまい、結論のない文になっているケースもあったので注意が必要。

規準 C: Language

語彙も文型も、幅、正確性の両方に関して、全体的に良かった。明らかにインターネットの資料を参考にしている、飛びぬけて難しい漢字熟語や文型を間違えて使っている例があった。この場合、何を言いたいのかわかりにくく、意味の通じない文章になっているケースも多かった。また、全体的に入力ミスが目立った。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 誤字、入力ミスが目立ったので（自身や地震など）、コンピューターで日本語を打つときの注意事項を徹底的に指導してください。
- この課題では趣旨の書きかたが一番難しいので、趣旨の書きかたを丁寧に指導してください。特に、目的の説明とそれがどう達成されたか、また、資料（sources）の詳しい説明がないと、Criterion A ではいい点が取れないことを強調してください。内容よりも趣旨のほうが重要で点数を大きく左右するといっても大げさではありません。また、趣旨の長さがほぼ 400 字ぎりぎりになっていなければ、内容が足りなく、高得点は取れないだろうと受験者に説明してもよいでしょう。
- まとまった「文章」ではなく、パンフレットやインタビューを書いている場合、内容が十分に発展していない例が見られたので、注意させてください。
- かっこいい漢字を書いたからといって、点にはつながらないということを分からせてください。
- どの部分が趣旨で、どこから本文が始まるのか、しっかり分けて書くように指導してください。

Higher level paper one

Component grade boundaries

| | | | | | | | |
|--------------------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 8 | 9 - 16 | 17 - 28 | 29 - 37 | 38 - 45 | 46 - 54 | 55 - 60 |

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

Paper 1 では、同じ意味の言葉を本文中から探したり、（ ）内に適切な言葉を入れたりすることが難しかったようである。どちらも語彙の問題である。また、同じ意味の単語を探すべきところ、長い文で答えていた生徒もいた。

その上、選択式の問題で、文法が分かっていたらこの答えは選ばないだろう、という答えを選んでいる生徒も目立った。

さらに、話の内容が分かっておらず、自由解答の問題の答えが全く違っていたり、答えが書かれていなかったりした。特に小説を読む問題にその傾向が強かった。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

自由解答の形式でも、読解の質問が簡単なもの、答えの語彙が難しくないものはほぼ全ての回答が合っていた。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

良くできた質問

Q9 の「ギャップイヤーにどんな活動ができるか」について本文中から1つ選んで答える問題には、ほとんどの生徒が「海外に留学できる」、または「ボランティア」と答えていた。両方の答えを書いている生徒も多かった。

Q18 の「どんなロボットを作ろうと思っているか」という問題にも「においが分かるロボット」と答えられていた。

Q19 の「どんな点で人間の鼻よりいいか」を答える問題にも「人間よりたくさんのおいをかぎわかる」や「わずかなにおいも感じるができる」と答えられていた。

Q22 の「ロボットはどんな点で犬より役にたつか」という問題は、ほとんどが「危ない所にも行ける」と答えられていた。

あまり良くできなかった質問

Q3 は、「問題」と似た言葉を本文中から探す問題である。「課題」が答えであるが、答えられない生徒もいた。

Q26 は、どの質問が入るかを選ぶ問題である。答えは「アベノミクスで景気が良くなったのは、どうして？」である。本文にはそれに続けて、「A: 安倍首相は日本銀行やその他の銀行を通してお金を世の中にばらまいたんだよ。…」と書かれている。主語が「安倍首相は…」で始まっているからか、この質問には「安倍首相ってだれ？」という質問を選んだ回答が多く見られた。

Q30 は、「明るさ」という言葉が本文中でどのような意味で使われているかを選ぶ問題である。この問題は「景気に明るさが見えてきた」の「明るさ」であるので、答えは「回復」だが、「明るさ」だけを見て答えたのか、「電球のひかり」と答えていた生徒が多かった。

Q32 は「生活が苦しい」という言葉が本文中でどのような意味で使われているかを選ぶ問題である。答えは「お金が足りない」であるが、「労働条件が悪い」という答えも目立った。

Q33 は、話のまとめを完成させる問題である。「 」に入る言葉を選ぶのである。「そのおばさんは毎朝みんなが出したゴミを『調べる』のです」が正解であるが、「調べる」の代わりに「あつめる」と答えていた生徒が多かった。

Q34 も、話のまとめを完成させる問題である。「間違っただ日にゴミを出した人が『いると』、その人の家に行きました」が答えであるが、「いて」が非常に多かった。これは文法の問題でもある。

Q38-41 の話を読んで自由解答の質問に答える問題は全体的にあまりできていなかった。特に、Q39 の今必要だと思われる講習の内容は「ゴミのすて方について」であるが、色々な違う答えが出てきていた。

Q52 の文が正しいか、正しくないかを答える問題では、「青いこいのぼりは世界中から送られて来ました」とう問題で、「全国」だから「正しくない」というのが答えであるが、全国を全世界と理解し、「全国」と書いているのにも関わらず、だから「正しい」と答え、点をもらえない生徒も目立った。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 語彙を増やし、同じことを別の言葉で言い換えることができるように訓練をすると良いでしょう。
- 質問をよく読み、「短い言葉」で答えるべきなら長い文や長い言葉は受け付けないように、「本文中から 1 つ選ぶ」べきなら 1 つだけを答えさせるようにトレーニングすると良いでしょう。
- 同じ問題で、毎年、「正しい」と「正しくない」の ○ のみをつけていたり、理由は合っているのに「正しい」、「正しくない」が間違っただけつけられていたりということが目立ちます。両方正解して点をあげるということを教室でも徹底するべきでしょう。

Standard level paper one

Component grade boundaries

| | | | | | | | |
|--------------------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| Mark range: | 0 - 5 | 6 - 10 | 11 - 14 | 15 - 23 | 24 - 31 | 32 - 40 | 41 - 45 |

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

読むスピードが遅く、問題 C、問題 D まで終わらせることができなかつた受験者もかなりいた。問題 C の江戸へのタイムスリップというアイデアを難しいと感じた受験者もいたようだ。本文を読み、それをまとめてある文に、リストから当てはまる言葉を選ぶ問題も難しかったようだ。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

問題 B の食事(給食)についての内容は比較的簡単だったようだ。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 A 「環境の問題をまんがで説明」をやや複雑に感じた受験者もいたようだが、最後の段落のまんがについての基本情報は正しく読み取れていた。問題 3 の「なってから」と「なったから」を正しく区別することができない受験者、また、問題 5 に「もらいました」と誤って書いた受験者も多かった。「石森プロ」は企業の名前としてとって、個人の名前としてとって正しいとした。

問題 B 「これが日本一おいしい給食だ」は、上にも書いたように、全体的によくできていた。文の前半と後半をつなげる 10 番には、ほとんどの受験者が正しく答えた。14 番から 17 番は「正しい」、または「正しくない」の □ に ○ はつけてあるものの、理由が書いていない解答、または、理由は書いてあるが、「正しい」・「正しくない」が示されていない解答も多かった。18 番から 20 番の 4 択問題は比較的よくできていた。

問題 C 「ザ・仰天！江戸ロジー」は語彙、文型、内容ともにやや複雑だった。しかし、21 番から 23 番の質問にがんばって答えようとしている姿勢が見られたのはよかった。23 番には多くの受験者が正しく答えていた。接続詞であなを埋める 24 番から 27 番が特に難しく、25 番が一番難しかった。

問題 D 「ハウス・オブ・ジョイ」の読み取りの質問で、33 番と 34 番はあまり難しくなかったが、32 番で「子ども」とだけ書いた受験者が目立った。連体修飾の読み取りが難しいようだ。38 番から 41 番もやや難しく、特に 40 番の「洗濯」を「そうじ」と間違える受験者、41 番の「育てます」を知らなかった受験者が多くいた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 「正しい」・「正しくない」・理由を書く の種類の問題が苦手な受験者が多いようなので、たくさん練習してください。特に文中から長い文を写しだすのではなく、適切な部分を選び、短く答えるように指導してください。
- 接続詞のあな埋め問題が苦手だったようなので、もっと練習させてください。
- 日本語を使って言葉の意味を考え、言葉を定義する力を伸ばしてください。
- 英文字を丁寧に書くように指導してください。E なのか F なのか、C なのか G なのか、添削していて迷うケースがいくつかありました。

Higher level paper two

Component grade boundaries

| Grade: | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|-------------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| Mark range: | 0 - 6 | 7 - 12 | 13 - 21 | 22 - 27 | 28 - 33 | 34 - 39 | 40 - 45 |

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

第一部の文章を書く問題に関しては特に問題がなかったようだが、第二部の問題は内容がやや難しめだったようで、自分の意見を簡潔にまとめ、しっかりと説明できた受験者は多くなかった。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

全体的には、受験者の語彙力や文法応用力は強い。また、身近なテーマ（アルバイト、マナーなど）に関しては文章を書く力は充分ある。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題1は自分の宗教にとって大切な日にアルバイトをしなければいけないという内容だった。困っていて、色々考えている気持ちは多くの受験者がしっかり書けていたが、宗教の日が何なのか、どうして大切なのかという説明が欠けていた場合が多かった。

問題2の日本のマナーに関しては、問題をしっかり読み取ってなく、学校内でのマナーについて全然触れていないケースが目立った。また、マナーは簡単に紹介されているが、それについてもっと深く掘り下げ、日本の文化や伝統と結びつけて詳しく説明できていない文章も多かった。

問題3は高校でのイベントに地元の子どもを誘うパンフレットを書くというテーマだったが、そのイベントの報告の記事になっていたり、スポーツをすることの良さについての学校新聞の記事になっていたりして、問題をしっかり読みこなし把握していない文章も多かった。

問題4は、初めてピアノを発表した友だちへのインタビューという問題だったが、インタビューの形式はしっかり書けていた。内容に関しては、問題に書いてあったポイントをそのまま質問・答にし、発展がたりなかったインタビューが多く、残念だった。

問題5は高校生の生活調査に協力を呼びかけるスピーチだったが、この問題はあまり人気がなかった。問題を読み取ることが難しかったようで、人と協力することの大切さについて書いてあったりした文章もあった。

上にも書いたが、第二部の問題は難しかったようで、字数内でしっかりと自分の意見を述べ、説明できていた受験者は少なかった。特に「一方では、もう一方では」と両側の立場を考慮して書こうと試みていた場合、字数が足りなくなったり、意見として述べていることとその説明や例が矛盾している文章が目立った。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 基本的な漢字も書かないで、ひらがなに頼りすぎている受験者が多い。漢字練習はつまらないかもしれませんが、日本語の重要な一要素なので、毎週こつこつと学習し、漢字力を伸ばすように指導してください。
- 要求されている内容、テキストタイプなど、あらゆる面で問題を詳しく読み、気をつけてそれに沿った文章を書くように注意させてください。特に、前に授業や宿題でやった身近なテーマの場合、「これは書ける」と安心してさっさと取り組んでしまい、問題の重要な一面が落ちていたケースが多かったような印象を受けました。
- 書き出すまえに構成を考え、段落を使い、しっかりしたまとまりがある文章を書くことの重要性を強調してください。
- 第二部の書き方に関しては、字数制限を最初から意識して書くことと、自分が述べている観点は何かということをしっかり考えてから書き始めるように指導してください。